

## 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月13日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社  
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅野 茂太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 梅本 隆司

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	274,409	4.9	6,423	9.1	6,937	12.6	1,906	△3.4
24年3月期第1四半期	261,664	△3.0	5,887	△37.3	6,159	△32.6	1,974	△47.7

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 3,308百万円 (10.2%) 24年3月期第1四半期 3,002百万円 (55.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	25.89	—
24年3月期第1四半期	26.80	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	756,211	298,790	38.6
24年3月期	749,985	298,491	38.9

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 291,809百万円 24年3月期 291,589百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	40.00	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	560,000	2.2	8,000	7.9	9,000	3.8	4,300	82.2	58.37
通期	1,125,000	1.4	24,000	18.9	24,000	9.7	11,800	73.4	160.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	76,341,700 株	24年3月期	76,341,700 株
② 期末自己株式数	2,676,086 株	24年3月期	2,675,306 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	73,665,930 株	24年3月期1Q	73,669,698 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(5) セグメント情報等 .....	10
(6) 重要な後発事象 .....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第1四半期 連結累計期間	274,409	6,423	6,937	1,906	25.89
前第1四半期 連結累計期間	261,664	5,887	6,159	1,974	26.80
対前年同期 増減率(%)	4.9	9.1	12.6	△3.4	—

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に景気は緩やかに持ち直しつつあるものの、欧州債務危機による海外景気の減速懸念やデフレの影響、長引く円高などにより、不透明な状況で推移しました。

こうした環境下、当社グループは、本年5月に発表した2012-2014グループ中期経営計画「TAKE OFF 14」(テイクオフイチョン)に基づき取り組みを開始しました。食品セグメントにおいては、大震災の影響を強く受けた市乳事業を中心にほぼ回復し積極的に事業を展開するとともに、医薬品セグメントでは、本年4月の薬価改定の影響を補うべく主力の医療用医薬品の学術普及活動強化に努めました。

この結果、当期売上高は2,744億9百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益は64億23百万円(同9.1%増)、経常利益は69億37百万円(同12.6%増)、四半期純利益は特別損失の増加により19億6百万円(同3.4%減)となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	245,358	29,527	274,886	△477	274,409
営業利益	3,435	2,804	6,240	183	6,423

① 食品セグメント (株式会社 明治の事業に相当)

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	231,819	245,358	5.8
営業利益	1,496	3,435	129.6

売上高は、乳製品事業が市乳を中心に好調に推移したことにより、菓子事業、健康栄養事業の売上減を補い、前年同期を上回りました。

営業利益は、主に乳製品事業の増収による利益増およびプロダクトミックスの改善により、前年同期を大幅に上回りました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

## ■ 乳製品事業（【市乳】牛乳類、ヨーグルト、飲料等 【乳食品】チーズ、バター、業務用乳製品等）

市乳は、昨年度下期以降のシェア回復に加えヨーグルトの需要増により、また乳食品は、主力商品群の順調な売上伸長などにより、全体では前年同期を大幅に上回りました。

### 【市乳】

- ・ヨーグルトは、売場演出をはじめ販促活動を積極的に展開したことに加え、本年1月以降、各種メディアで取り上げられたことによる市場拡大が継続しており、「明治ブルガリアヨーグルト」や機能性ヨーグルト「明治プロビオヨーグルト LG21」「明治ヨーグルト R-1」などが伸長、前年同期を大幅に上回りました。
- ・牛乳類は、「明治おいしい牛乳」ブランドの10周年キャンペーンが奏功し、前年同期を上回りました。
- ・業務用生クリームは、顧客の新規開拓などにより、前年同期を上回りました。

### 【乳食品】

- ・市販用ナチュラルチーズは、主力の「明治北海道十勝カマンベールチーズ」の伸長や販売地区を拡大した「明治ポーノチーズ」の好調により、前年同期を上回りました。
- ・市販用マーガリン類は、昨年発売の「明治ヘルシーソフト オフスタイル」に加え、本年3月発売の「明治ふんわりムースソフト クリーミースムース」などが寄与し、前年同期を上回りました。

## ■ 菓子事業（【菓子】チョコレート、ガム、キャンデー、輸入菓子等 【デザート】アイスクリーム、スイーツ等 【フードクリエイト】業務用（製菓・食材）等）

菓子事業は、デザート、フードクリエイトは順調に売上を伸ばしましたが、菓子は、震災後、定番品を中心に売上が伸びた前年同期に届かず、全体では前年同期を下回りました。

### 【菓子】

- ・チョコレートは、「ガルボ」群と発売50周年を迎える「アーモンドチョコ」などのナッツチョコレート群が順調に推移しましたが、「ミルクチョコレート」やチョコスナック群の売上減を補えず、全体として前年同期を下回りました。
- ・ガムは、市場も低迷する中、前年同期を下回りましたが、本年6月に「キシリッシュ」をリニューアルし、活性化に向けた取り組みを開始しました。

### 【デザート】

- ・アイスクリームは、主力の「明治エッセルスーパーカップ」が前年同期を大幅に上回りました。加えて、昨年9月発売の「明治チョコレートアイスクリームバー」や本年3月発売の「明治クリスピーズ チョコ&バニラ」が売上に寄与しました。
- ・なお、本年5月、日本のチョコレート文化の発信拠点として、明治がプロデュースする「100% ChocolateCafe.」の2号店となる東京スカイツリータウン・ソラマチ店を開業しました。

### 【フードクリエイト】

- ・フードクリエイトは、顧客ニーズにきめ細かく応える商材提供を強化し主力の商品群が伸長、製菓・食材とも前年同期を上回りました。

## ■ 健康栄養事業（【健康】スポーツ栄養、健康機能、食品、OTC等 【栄養】粉ミルク、流動食、病態食等）

健康は震災の影響等により需要が伸びた前年同期を下回り、栄養は前年同期並みの水準となった結果、全体では前年同期を下回りました。

### 【健康】

- ・総合スポーツサプリメント「ザバス」は、ユーザーの増加などにより順調に拡大し前年同期を上回りましたが、基礎美容食品の「アミノコラーゲン」は、市場の低迷や競争激化を受け前年同期を下回り、健康全体で前年同期を下回りました。

### 【栄養】

- ・流動食は、震災影響から順調に回復、新規採用先の増加や新商品の寄与により、前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは、前年同期を下回りました。なお、昨年12月の「明治ステップ850g缶」お取り替え対応直後の販売状況から着実に回復してきております。

## ② 医薬品セグメント（Meiji Seika ファルマ株式会社の事業に相当）

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	30,297	29,527	△2.5
営業利益	4,135	2,804	△32.2

売上高は、医療用医薬品のうち国内では、抗うつ薬、ジェネリック医薬品の伸長などにより、本年4月の薬価改定の影響を吸収し前年同期を上回りました。一方海外は、為替の影響等により前年同期を下回りました。また生物産業事業は、農薬・動物薬とも苦戦となり、セグメント全体では前年同期を下回りました。

営業利益は、減収による利益減に加え販売費の増加などにより、前年同期を大幅に下回る結果となりました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

## ■ 医療用医薬品事業

- ・抗菌薬では、「メイアクト」は薬価改定の影響を受け前年同期を下回りましたが、「オラペネム」は前年同期を上回りました。
- ・抗うつ薬では、「デプロメール」は薬価改定の影響を受け前年同期を下回りましたが、「リフレックス」は積極的な学術普及活動により前年同期を上回りました。
- ・ジェネリック医薬品では、カルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」は前年同期を上回りました。加えて、昨年11月に発売したアルツハイマー型認知症治療剤「ドネペジル 明治」や、本年6月に発売した抗うつ薬「パロキセチン 明治」も売上に寄与しました。

## ■ 生物産業事業（農薬・動物薬）

- ・農薬は、いもち病防除剤「オリゼメート」および昨年4月発売の茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」の売上減が響き、前年同期を下回りました。
- ・動物薬は、家畜用薬、水産用薬とも前年同期を下回りました。なお、本年4月よりコンパニオンアニマル用薬を専門に取り扱う組織を設置し、取り組みを開始しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

〔資産〕

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は7,562億11百万円と前連結会計年度末に比べて62億26百万円増加しました。これは商品及び製品が31億53百万円、仕掛品が10億53百万円、原材料及び貯蔵品が17億73百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は4,574億21百万円と前連結会計年度末に比べて59億27百万円増加しました。これはコマーシャル・ペーパーが90億円増加した一方、賞与引当金が41億25百万円減少したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は2,987億90百万円と前連結会計年度に比べて2億99百万円増加しました。これは為替換算調整勘定が11億57百万円、その他有価証券評価差額金が3億98百万円増加した一方、利益剰余金が10億39百万円減少したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は38.6%（前連結会計年度末は38.9%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期が概ね計画通りに進捗しているため、平成24年5月14日の「平成24年3月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想数値は変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,662	13,963
受取手形及び売掛金	168,699	168,943
商品及び製品	77,292	80,445
仕掛品	2,240	3,293
原材料及び貯蔵品	32,480	34,254
その他	27,438	29,470
貸倒引当金	△282	△262
流動資産合計	322,531	330,108
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	270,604	272,786
減価償却累計額	△149,088	△150,014
建物及び構築物(純額)	121,515	122,772
機械装置及び運搬具	423,885	423,695
減価償却累計額	△322,356	△324,135
機械装置及び運搬具(純額)	101,528	99,559
工具、器具及び備品	56,671	56,488
減価償却累計額	△47,235	△46,964
工具、器具及び備品(純額)	9,435	9,524
土地	65,255	65,278
リース資産	7,041	7,311
減価償却累計額	△2,559	△2,892
リース資産(純額)	4,482	4,418
建設仮勘定	8,966	8,242
有形固定資産合計	311,184	309,796
無形固定資産		
のれん	270	250
その他	7,770	7,466
無形固定資産合計	8,040	7,716
投資その他の資産		
投資有価証券	42,212	41,979
その他	66,484	67,095
貸倒引当金	△469	△484
投資その他の資産合計	108,228	108,591
固定資産合計	427,453	426,103
資産合計	749,985	756,211



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	109,136	112,443
短期借入金	61,860	62,583
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
コマーシャル・ペーパー	47,000	56,000
未払法人税等	2,888	2,539
賞与引当金	9,286	5,161
返品調整引当金	212	166
売上割戻引当金	5,772	3,935
その他	76,342	76,021
流動負債合計	352,500	358,851
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	6,401	5,263
退職給付引当金	18,590	19,270
役員退職慰労引当金	417	305
その他	23,584	23,730
固定負債合計	98,994	98,570
負債合計	451,494	457,421
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	98,852	98,852
利益剰余金	174,494	173,454
自己株式	△9,268	△9,270
株主資本合計	294,078	293,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,127	5,526
繰延ヘッジ損益	△2,303	△2,595
為替換算調整勘定	△5,313	△4,156
その他の包括利益累計額合計	△2,488	△1,225
少数株主持分	6,901	6,980
純資産合計	298,491	298,790
負債純資産合計	749,985	756,211

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	261,664	274,409
売上原価	174,625	182,378
売上総利益	87,039	92,030
販売費及び一般管理費	81,151	85,606
営業利益	5,887	6,423
営業外収益		
受取利息	7	14
受取配当金	443	506
不動産賃貸料	677	616
為替差益	42	59
その他	292	493
営業外収益合計	1,464	1,690
営業外費用		
支払利息	475	446
不動産賃貸原価	492	469
持分法による投資損失	1	16
その他	221	244
営業外費用合計	1,192	1,176
経常利益	6,159	6,937
特別利益		
固定資産売却益	248	26
投資有価証券売却益	1	67
企業立地促進補助金	—	50
その他	30	38
特別利益合計	280	183
特別損失		
固定資産廃棄損	334	754
投資有価証券評価損	312	1,125
事業再編費用	279	—
その他	263	69
特別損失合計	1,189	1,949
税金等調整前四半期純利益	5,250	5,171
法人税等	3,150	3,242
少数株主損益調整前四半期純利益	2,100	1,928
少数株主利益	126	21
四半期純利益	1,974	1,906

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,100	1,928
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	148	414
繰延ヘッジ損益	△35	△292
為替換算調整勘定	787	1,186
持分法適用会社に対する持分相当額	2	71
その他の包括利益合計	901	1,379
四半期包括利益	3,002	3,308
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,791	3,170
少数株主に係る四半期包括利益	210	138

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	231,527	30,136	261,664	—	261,664
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	291	160	452	△452	—
計	231,819	30,297	262,116	△452	261,664
セグメント利益	1,496	4,135	5,631	255	5,887

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額255百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用223百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	245,095	29,313	274,409	—	274,409
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	262	214	477	△477	—
計	245,358	29,527	274,886	△477	274,409
セグメント利益	3,435	2,804	6,240	183	6,423

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額183百万円には、セグメント間取引消去60百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用123百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

のれんの金額の重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

重要な負ののれんの発生はありません。

(6) 重要な後発事象

当社は平成24年6月12日開催の取締役会決議に基づき、平成24年7月27日に下記のとおり国内無担保普通社債を発行致しました。

1. 第3回無担保社債（5年債）

(1) 発行総額	100億円
(2) 発行価額	各社債の金額100円につき金100円
(3) 利率	年 0.306%
(4) 払込期日	平成24年7月27日
(5) 償還期限	平成29年7月27日
(6) 償還方法	満期一括償還
(7) 資金使途	社債償還資金及びコマーシャル・ペーパー償還資金
(8) 特約条項	担保提供制限条項

2. 第4回無担保社債（7年債）

(1) 発行総額	200億円
(2) 発行価額	各社債の金額100円につき金100円
(3) 利率	年 0.506%
(4) 払込期日	平成24年7月27日
(5) 償還期限	平成31年7月26日
(6) 償還方法	満期一括償還
(7) 資金使途	社債償還資金及びコマーシャル・ペーパー償還資金
(8) 特約条項	担保提供制限条項